

今年も新型コロナウイルス感染症
防止の為規模を縮小して開催しなく
てはなりません事を関係者の皆様方
にご理解を賜りたいと存じます。

本日、ここ二中健見の御霊の前で、
慰霊祭を挙行するにあたり、謹んで
哀悼の意を表します。

忌まわしい大戦終結から七六年の
月日が経ちましたが、御遺族の皆様
にとりましては、愛する肉親を戦争
によって奪われた無念さは、果てる
時はないでありますように。

ここ、二中健見の塔に祀られた一
九六の御柱みはしらよ、二中校歌を聴かれた
でしうか。「楚辺原頭に風清く永
遠にゆるがぬ城岳 その秀麗の地を
占めて 我が学び舎は聳え立つ」

テープによる演奏を聴いて戴きました。御遺族の方々は、きっと、永遠に変わらぬ、少年の日の姿をまぶたに思い描かれたことでしょう。同じ時期に学窓にあり、戦火の中を幸いにも生き抜いた同期の方たちも、在りし日の友の元気な姿、あの声、あの笑顔が目に浮かび、万感胸に迫るものがあるかと存じます。

昭和十九年十月十日の大空襲で、その校舎も全て焼け果てた後は、学徒兵として動員され、多くの仲間が鉄血勤皇隊あるいは通信隊の一員として尊い命を散らせていったのでした。

激しい戦火の中で、飢餓と恐怖に耐えながら学生達が、いかに学窓へ

の情熱を持ち続け、平和な世が来ることをどれほど待ち望んでいたのか、その心境を思うと心痛むばかりであります。

戦後七六年、いまなお世界各地で争いが絶えず不穏な状況が解消されていないのは極めて残念なことです。恒久平和を願う我々の切なる思いは募るばかりです。

さて、二中・那覇高校は昨年、創立百十年を迎えました。学校・PTA・城岳同窓会三者が協力して、創立百十周年記念事業を実施したことを御霊に報告致します。新型コロナ禍で当初の計画から内容は変更いたしましたが多くの同窓生から寄付金を集める事ができ、その中から一千四十

万円相当の教育機材を学校へ寄贈する事が出来ました。

現在の那覇高校は、校訓である「和衷協同」「積極進取」のもと職員、生徒共々切磋琢磨して文武両道で活躍しており、さらなる発展を願うものであります。

二中健児の皆様も母校の後輩たらの活躍ぶりを、温かく見守ってください。平和を守り、沖縄を世界平和の発信の地とすることを、一九六名の御柱に誓って、追悼の辞と致します。

令和三年六月二十三日

一般社団法人城岳同窓会

会長 宮里 博史